令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岸中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	・学校全体としては、「知識・技能」の定着を図ることができている。しかしながら、一定数の生徒は、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。次年度も「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行い、個別最適な学習を充実させ、知識・技能の確実な定着を図ることができるようにする。
思考・判断・表現	・調査結果からは、「思考・判断・表現」についても一定の成果が伺える。本校の生徒は、課題について、自ら考え、自分なりに表現する力はある程度身に付いていると思われる。次年度は「オクリンクプラス」やICT等の思考ツールを授業をより活用し、子どもたちの探究のため、他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善を目指す。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語、数学の「知識・技能」において、高い水準を維持しつつ、令和5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より1pt向上させる。 <指導上の課題> 個別最適な学習を充実させ、知識・技能の確実な定着を図ることができる授業を実施する。	⇒ 「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 令和5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語において2pt、数学において1pt向上させる。 <指導上の課題> 他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善を目指す。	⇒ 生徒がレポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価する。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	・R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語は中2で0.8pt上昇、中1で0.2pt上昇した。数学は中2で0.4pt上昇、中1で0.3pt上昇した。 ・中3の英検3級相当の割合は、89%→90%で+1%増加し、達成することができた。
思考・判断・表現	B	・R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語は中2で0.2pt上昇、中1で0.2pt上昇した。数学は中2で0.3pt上昇、中1で0.3pt上昇した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・R5年度の自校の結果より、国語+6.5、数学-0.1であった。知識・技能に係る問題の正答率は、国語80%以上、数学70%以上あり、全国と比較しても高い水準であることがわかった。
思考・判断・表現	・R5年度の自校の結果より、国語+7.5、数学+8.1であった。国語においても数学においても、根拠を明確にして考え、説明することができることを問う問題の正答率が顕著に高くみられた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・R6年度のさいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して全ての教科で平均を上回ることができた。教科によっては10pt以上上回るものもあり、知識・技能の確実な定着を図ることができていると考えられる。
思考・判断・表現	・R6年度のさいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して全ての教科で平均を上回ることができた。「知識・技能」とは異なり、10pt以上上回るものはなかったが、他者との対話や協働、自分の考えをより明確にしたり、広げたり、深めたりすることができる授業改善に取り組んだ結果と考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	・「ドリルパーク」、「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	・生徒がレポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価することができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)